



ミラノサローネの新しいフロンティア:

デザイン・コミュニティとつながり、未来のビジョンを提供する、オープンなエコシステムと体験

第62回ミラノサローネでは、進化と革新がキーワードとなっています。このサローネは、ますます包括的、価値主導、責任あるコンテキストとなり、年間を通じてデザイン界に関連する結びつき、物語、プロジェクトを生み出すファブリックとなっています。

第62回Salone del Mobile.Milano/ミラノサローネ国際家具見本市(以下、ミラノサローネ)は、4月16日から21日まで、Fiera Milano, Rho/ロー・フィエラミラノにて開催されます。今年は、「美」と「上質」を国際的に重要な唯一のステージで再び展示するだけでなく、革新と進化に必要な条件の、文字通り「既成概念にとらわれない」、新しく挑戦的なアプローチで開催されます。この挑戦には、見本市の経験を常に向上させるという観点から、デザインシステム全体に利益をもたらすための**ビジョン、傾聴、分析能力、熱意、好奇心**、そして**弾力性と柔軟性**が求められます。すべては**エコロジカルな転換**のためです。

神経科学の貢献と「人間を中心に」という哲学の庇護のもと、エウロクチーナと国際バスルーム見本市のレイアウトとルート¹を最適化し、パビリオンの配置を全面的に見直しました。来場者の体験の価値と感覚を増幅させるために、出展社を内容別、来場者をターゲット別にグループ化することを目的としパビリオンを全面的に再構成したのです。そして、見本市会場全体を通じて豊かで多分野にまたがる卓越した**文化的提案**が展示されます。また、**人工知能(AI)**により、国際的なデザインコミュニティの会話を収集する、常に**進化**する**コミュニケーション・キャンペーン**が登場。そして、**エコシステムとしてのミラノサローネ**の調査を目的とした**ミラノ工科大学のデザイン学部とデザイン学校とのコラボレーション**が実現し、この地域の社会経済的な範囲における現象を掘り下げます。これに加え、**サローネサテリテ25周年**を記念して、トリエンナーレでは、伝統的な展示会の枠を超え、オブジェ、プロトタイプ、スケッチ、画像、証言からなる、まさに**ブレンダーカマー**(15世紀末からヨーロッパ各地で始まった現在の博物館の前身)となる展示が開催されます。

ミラノサローネ、マリア・ポッコ代表のコメント:

「フロンティアに立ち続け、未来を予測し、その都度、未来の小さな断片に命を吹き込むことは容易なことではありません。しかし、サローネのような重要な伝統を持つ見本市にとっては不可欠なことです。そして、自らの価値観だけでなく、それを代表するすべてのステークホルダーの価値観も受け止めなければなりません。革新を起こすためには、耳を傾け、弱点を見極め、チャンスを認識し、つかむことを学ぶ必要があります。数年前に始まったプロセスを継続するサローネは、伝統的なパターンや「いつもこうしてきた」という概念を払拭し、新しい視点を切り開こうとしています。決して容易ではないが、やり甲斐があるのです。コミュニティ全体を巻き込み、耳を傾け、新しいアプローチ、方法論、テクノロジーを見極め、的を射ていると確信するまで実験を繰り返す。幕が上がり、舞台が整うまで、自分たちのプロジェクトが観客にアピールし、演劇体験を向上させるかどうかわからない舞台美術のようなものだ(注:マリア・ポッコ氏は舞台美術をブレラ大学で学んだ後、各国で舞台制作やオリンピック運営に携わった)。神経科学、人工知能、新しい形式と道、一貫性と多領域性の間の統一的だが拡散的な文化プロジェクト、デヴィッド・リンチの考えるための部屋、サロットNYによるバスルーム業界の現状を把握するインスタレーション、さらにはプリツカー賞受賞者とのトーク、アーティストやフードデザイナーによる先見性のあるパフォーマンスなど、ミラノサローネ以外では再現することが不可能であり、たとえそれが1週間限定でなく、デジタルプラットフォームの推進力と包容力によって1年を通してバーチャルに開催されていても、見逃すことはできません」



Salone del Mobile. Milano

2024年のミラノサローネには、35歳以下のデザイナー600人と22のデザイン学校を含む1,900以上の出展が集結します。今年は6つの見本市「サローネ国際家具見本市」「サローネ国際インテリア小物見本市」「Workplace3.0」「S.Project」「エウロクチャーナ」「サローネ国際バスルーム見本市」と、若手デザイナー展示「サローネサテリテ」を開催。隔年開催見本市では従来の単一平面的な配置が一新され、体験型スペース、休憩・くつろぎスペースを伴った美しい経路が登場します。国際的なゲストを招いたラウンドテーブル、デザインのホットな話題のワークショップ、若者のためのセッションなどを提供します。没入型のインタラクティブなサイトスペシフィック・インスタレーションを設置し、業界の現状を学び、インテリアの物理的・感情的価値について考える場を提案。また、芸術的なパフォーマンスを行い、明日のビジョンを生み出します。円形の書店とアリーナに加え、新しいデザイン・ライブラリーも登場。すべては、来場者にエキサイティングで主観的な、記憶に残る探検の機会を提供するためであり、長期的なつながり(ビジネスを含む)を生み出すことができる唯一の場となります。

FederlegnoArredo (FLA) /イタリア家具工業連盟 クラウディオ・フェルトリン会長のコメント:

「ミラノサローネは、今年もこの分野における最も重要なビジネスの場であり、研究、革新、職人技、持続可能性が一体となった木工家具のサプライチェーン全体が、その生産品質の高さを示す機会となる。私たちは、2023年に526億ユーロの売上高を計上し、そのうち約200億ユーロが輸出、327億ユーロが国内市場であり、2022年比-8.1%(2019年より高い水準)で1年を締めくくった。消費者刺激策による2年間の例外的な成長後、内需の生理的な落ち込みに直面したにもかかわらず、家具のマクロシステムは280億ユーロを記録、ドイツや米国などの主要な基準市場が問題を抱えている不確実な経済状況にもかかわらず、53%を世界中に輸出した。このような複雑で発展的な状況にもかかわらず、ミラノサローネのような国際的な見本市が開催できることは、我々にとって確信が持てることであり、この見本市から、業界関係者、プレス関係者、来場者にトレンドを発信するだけでなく、出展社が世界中の市場を幅広く見渡すことができるのです。FLAは、デザインの付加価値が高く、美しく、完成度の高い、持続可能な製品の連鎖を世に送り込み、ロー・フィエラミラノの展示会場から、競争力が、環境、経済、社会の持続可能性の問題への具体的な取り組みと密接に結びついていることを確信し、会員企業へのコミットメントを確認します」

【神経科学を取り入れた隔年開催見本市の新しい展示レイアウト】

今年隔年開催見本市の展示レイアウトが一新されます。エウロクチャーナとFTK - (テクノロジー・フォー・ザ・キッチン)は2-4ホール、サローネ国際バスルーム見本市は6-10ホール、この4ホールの新しいレイアウトを手掛けたのは、イタリアの建築・エンジニアリング界をリードするグループ、ロンバルディーニ22。ミラノサローネの依頼を受けた彼らは、見本市の分野で初めて**神経科学**に着目し、展示や休憩エリアのさまざまなルート、位置、配置に対する来場者の神経学的、感情的、知覚的反応を分析することで、**来場者の体験**を向上させます。バーチャル環境での様々な実験の結果、選ばれた**リング状レイアウト**は、より直感的で、移動しやすく、覚えやすく、同時に全ルートで展示の意味を維持することができます。

従来とは対照的に、展示ブースを外周の壁に寄せて配置することで**左右対称のルート**が構成され、主要なルートはより広がって方向性が改善され、**文化的なインスタレーション**や静かなエリアが設けられ、見本市で経験する**典型的な美術館疲れ**を打ち消す工夫がなされています。しかも、**隔年開催見本市**のすべてのブースを回るのに、1.2キロの道のりを640メートルに短縮しています。

【SaloneSatellite/ サローネサテリテ 25周年:トリエンナーレで特別展】

サローネサテリテ(ホール5-7)は、600人の若き才能と22のデザイン学校とともに25回目の開催を迎えます。



Salone del Mobile. Milano

今年は「Connecting Design since 1998 (1998年からデザインを繋ぐ)」をテーマに掲げ、四半世紀にわたり、**14,000人以上の新進デザイナー**を世に排出し、育て、世界中の文化やプロジェクトの間に実りある関係を紡いできたことを祝います。この節目を記念して、トリエンナーレで開催される展覧会(4月16日から28日まで)は、**ベッペ・フィネッシ**が企画し、**リカルド・ベッロ・ディアス**が設営したもので、単にオブジェを陳列するだけでなく、サローネサテリテの歴史全体を再考するものとなります。さらに、生産界と、世界のさまざまな場所からデザインシーンや家庭に新しいアイデアをもたらしてきた若い才能たちとの間の、素晴らしく複雑な関係を表舞台に登場させます。神経科学的なアプローチに話を戻すと、**脳は芸術、文化、美学によって「快適ゾーン」から一歩踏み出すよう刺激され、それが心を開放し、イノベーションを生み出す非常に強力なチャンネルとなりうることを踏まえ、サローネは新しい形の実験、比較、洞察の文化プログラムを開発しました。**この提案は、(去年のエウロルーチェ会場全体の「シティ・オブ・ライツ」とは異なり)、来場者がその美しさに圧倒されるよう、来場者の道筋に沿ってデザインされているため、点在することになります。

【2つの併催イベント: インスタレーション】

- 「**デヴィッド・リンチのインテリア : A Thinking Room (考える部屋)**」(ホール5-7) : 潜在意識に働きかける映画監督として有名な**デヴィッド・リンチ**が、今回のミラノサローネに捧げる作品。2つの同じ部屋、合わせ鏡のような「考える部屋」は、その**展示に惹き込まれるような象徴的な扉**が考案されており、これによって、ミラノサローネは、独創的かつ想像力豊かな方法で、**インテリアの生産**と、その空間が単なる装飾的な理由ではなく、**自己の外的な投影**としてそれを経験する人々の**内面性**とがいかに深く関係しているかを考察しています。
- 「**アンダー・ザ・サーフェス**」(ホール10) : **倫理、持続可能性、テクノロジー、そして水の力、魅力、はかなさ.....**エミリアーノ・ポンツィ、アキュラット、**デザイン・グループ・イタリア**が、**サローネ国際バスルーム見本市**のためにデザイン・実現した**インスタレーション**は、多くの示唆から生まれました。水の持続可能性に関して、**バスルームデザイン**はどのような立場にあるのだろうか。「アンダー・ザ・サーフェス」は、**地球上で最も貴重な天然資源である水との積極的で尊重すべき関係**というテーマと、**より意識的な水の使用へと導くバスルーム家具業界の役割**について、来場者に考えさせます。この**インスタレーション**は、**水没した島の形**をとっており、日常的な水に関する習慣が環境に与える影響について来場者が認識できるよう、**視覚的かつ喚起的でありながら、深い教育的な物語**を誘発します。絶え間なく動き、変化する光の反射は、世界の水消費に関するデータを表し、**ダイナミックなデータビジュアライゼーション**の革新的な使用によって、**バスルーム用品の分野における節水に関連する技術と製造の進歩**が語られます。

【2つの併催イベント: エウロクチャーナとTALK】

- 「**All You Have Ever Wanted to Know About Food Design in Six Performances (6つのパフォーマンスでフードデザインの全てを知る)**」 : **エウロクチャーナ**の中心には、流動的で居心地の良い大きなステージが設けられ、**6つの独立系および国際的なフードマガジン**が、世界中のアーティスト、デザイナー、シェフとともに、**自然が与えてくれる食材の現在と未来**について、新しく独創的なビジョンを提示します。包括的なタイトルに掲げるプロジェクトでは、**考察、展示、講演、試食体験**が連日行われます。『**Family Style**』(アメリカ)、『**L'Integrale**』(イタリア)、『**Linseed Journal**』(イギリス)、『**Magazine F**』(韓国)、『**The Preserve Journal**』(オーストリア)、『**Farta**』(ポルトガル)の各誌が、食品分野がデザイン界にもたらす**挑戦と機会**に関する議論を繰り広げます。食とデザインの組み合わせによって、さまざまな探求の機会が開かれます。食は他の製品と同じであり、プロジェクトなのです。6つの体験は、この地球上の人類の**未来に変化をもたらす食の実験の進歩**のために、境界を超え、**新たな道を切り開く**ことを促します。**インスタレーション**は会期中通して、来場者に公開され、**試食体験**とそれに付随するプロジェクトや編



Salone del Mobile. Milano

集ビジョンのプレゼンテーションは毎日14:30からライブで行われます。

- 「TALK&ラウンドテーブル」: アンナリーザ・ロツのキュレーションによる新しいプログラム「Drafting Futures. Conversations about Next Perspectives (未来を描く、次なる展望についての対話)」では、より意識的な未来への礎を築きつつある、現代の最も興味深い著名人が集います。午前のトークは、フォルマファンタズマがデザインした「Drafting Futures」と名付けられたアリーナで11:00から開催され、昨年使用した座席が再利用され、抽象的なデザインがプリントされたカーペットで覆われます。その模様は、内省に没頭しているときや電話での会話中に描かれる落書きを彷彿とさせます。
 - プリツカー賞を受賞したアフリカを代表する建築家ディエド・フランシス・ケレをジュリア・リッチがインタビュー
 - 英国の建築家、ジョン・ポーソンが作家、批評家、キュレーターのデヤン・スディッチと対談
 - ニューヨークで話題の建築家、ジャンヌ・ギャングは、ヴィクトリア&アルバートミュージアムの現代デザイン担当キュレーター、ジョアンナ・アガーマン・ロスと対談
 - ロンドンのサーペンタイン・ギャラリーのアーティストリック・ディレクター、ハンス・ウルリッヒ・オブリストは、ミラノ・サローネ代表のマリア・ポッロと対談

ラウンドテーブルでは、ジェノバで開催されるジェノヴァ国際ボートショーと共同で開催され、人工知能の活用、セーリングとデザインの関係、ホスピタリティ業界の最新動向など、デザインと建築が現在直面している最も重要な問題に取り組みます。

いずれのイベントも、プロジェクト、デザイン、建築が、いかにして現在を理解し、未来を想像し、新たな道を開き、解決策を見出し、直感と想像力を活性化させながら、可能性をふるいにかけることができるかが討論で明らかになります。今回のアリーナでは、新たなプロジェクトとして、フォルマファンタズマの設計による「Salone del Mobile Library (サローネ・デル・モビーレ・ライブラリー)」が登場。私たちの行動や将来の展望を、より良い方向へと変化させるような作品が集められます。

【ブックショップ再登場】

アリーナの隣には、昨年の大成功を受け、今年も コライニー出版キュレーション、フォルマファンタズマによるデザインの「Corraini Mobile bookshop」が設置され、デザイン、アート、イラストレーションの世界に特化した幅広いセレクションの国際的な出版物が、食とフードデザインをテーマに、110冊以上が展示・販売されます。あらゆる年齢層の子どもたちが、楽しく独創的な方法でデザインの世界をより深く知ることができるような本や、限定版のポスターやグラフィック、陶磁器、小さな工芸品やユニークな作品、希少な作品なども展示されます。このスペースは、見本市のインスタレーションと呼応し、サローネの不可欠な一部となっています。

【ミラノサローネのオブザーバトリー/常設観測所の設置】

2年に1度開催されるバスルームとキッチン見本市のインスタレーションとプロジェクト、そしてトークとラウンドテーブルのナラティブが、すでに環境、経済、社会的責任を中心に据えますが(サローネは前回からISO20121の認証を取得)、更に、ミラノ工科大学デザイン学部との新たなコラボレーションは、ミラノサローネ開催期間/ミラノ・デザインウィークのエコシステムと、持続可能性、包摂性、循環性、成長性、技能移転の観点からコミュニティに与える影響を分析するための常設観測所の設置に向けたものであり、この分野においてサローネが取り組んだ最大のプロジェクトです。この研究プロジェクトは、サローネというエコシステムを独自の解釈で調査し、新たな指標の収集と分析、そしてサローネで活動するステークホルダーの集めつつ多角的な考察によって、サローネという現象の社会経済的な広がりを探ることを目的としています。



Salone del Mobile.Milano

この最初の活動は、ミラノサローネとミラノ市に影響を与える機会と課題を特定するための常設プラットフォームである、将来のミラノサローネのオブザーバトリーの基礎を築くものです。

【サステナビリティ・ポリシー】

サローネはサステナビリティ・ポリシーを刷新し、目標とますます積極的に責任ある関与のハードルを上げ、認証されたサプライヤーや、リサイクル可能または再利用可能なソリューションや共通部品を製造するための材料を提供できるサプライヤーを特定する手順をすでに開始しており、責任ある包括的な発展の道筋に沿って構成されたビジネスモデルのための舞台やサウンディングボードとしての役割を確認するよう努めています。戦略の中心に人と地球への真の配慮を持つ機関パートナーを選び、昨年提案された持続可能なセットアップのためのガイドラインをすでに出席企業に拡大しています。また、ミラノサローネは国連グローバル・コンパクトへの支持も表明しています。

【人工知能 (AI) を採用したコミュニケーション・キャンペーン】

ミラノサローネの新しいコミュニケーション・キャンペーンは、ミラノ工科大学の DensityDesign ラボの創設者であり、ボストンのノースイースタン大学デザイン・センターのディレクターであるパオロ・チウッカレッリの科学的協力を得て、ピュブリシス・グループ (フランス・パリに拠点を置く世界第 3 位の広告代理店グループ) によってデザイン・制作されました。「Where Design Evolves (デザインが進化する場所)」というコンセプトのもと、ミラノサローネの進化的なエッセンスを視覚的かつ概念的な言語に変換し、3つの異なるキービジュアルの中で、デザインコミュニティ、専門家、イベント自体の体験をフィーチャーした 1 つの素晴らしいストーリーを表現しています。単に効果的なアート作品を見せるのではなく、デザインとそれを生きる人々、デザインを創る人々とそれを語る人々との間の深い関係を引きつけ、対話し、探求し、人工知能 (AI) の使用を通じてその進化を視覚的に説明することが重要なのです。このキャンペーンの実現に採用されたデータ主導の手法は、人工知能と人間の創造性を組み合わせることで、サローネとその世界中の観客との間に、これまでにない対話が生まれることを示します。

【更に便利になるデジタルプラットフォーム】

今日、技術革新が主にデジタルの次元を通過するとすれば、イベントのオンライン・プラットフォームは、来場者や出展社との主要な接続形態として機能し、つながりを拡大・強化し、ソーシャルメディア上のコミュニティとの関係も育むことを目的とした、完全に魅力的な体験を創造する、さらに重要な役割を果たすことになります。

- 出展社側では、多様なデジタルおよびコミュニケーション製品ソリューションのパッケージの導入に加え、マッチメイキングおよびスタンドアポイントメント予約サービスが基本となり、見本市開催中の時間を最適化し、質の高いコンタクトをリアルタイムで得ることができるようになります。
- 来場者側では、オンライン・チケットサービス、出展社ブース行き案内、幅広い専用サービスによる来場の準備が非常に機能的になります。
- サローネは、コミュニティとのつながりや関係を強化するため、複雑なデザインの世界を現代的な語り口で語ることでできるプロジェクトを立ち上げ、専門的な価値をもたらすだけでなく、ストーリーに深みと信憑性を与え、サローネの文化的なプロモーション能力を強化するために、この分野の権威ある声も参加させました。例えば、リッソーニ、フォルマファンタズマ、パロンバ、セラフィーニを含む国



Salone del Mobile. Milano

際的に著名な建築家やデザイナーが参加する「Behind the doors」ウェブシリーズや、キュレーターのマリア・クリスティーナ・ディデロとともに開発した「Design forward」ポッドキャストが誕生しました。

- コンテンツ戦略は、高品質、多様化、新しい言語、効果的なマルチプラットフォーム配信を目的としており、ストーリー、視点、情報に富んだ複雑な世界にスポットを当てるというサローネの絶え間ないコミットメントを反映しています。会期が近づくにつれ、出展社のさらなる充実を図り、より良い来場計画を立てるために、展示会内での知識や方向性を容易にすることを目的としたコンテンツで、物語を充実させていきます。
- さらに、今年もFuorisaloneとのコラボレーションが決定し、Fuorisalone.itの地図上に、見本市のパビリオン内の位置と市内で開催されるイベントの両方が戦略的に表示されることで、出展社の認知度が高めます。コミュニティは成長を続け、2023年には45万以上のインタラクションと1億1000万以上のインプレッションを記録しました。ミラノサローネの公式ハッシュタグは#salonedelmobile2024と#wheredesignevolvesです。

【ウェルカムプロジェクト】

ミラノサローネが常に掲げてきた「包摂」「奉仕」「育成」という使命の証として、また国際的な役割の再確認として、ウェルカム・プロジェクトは9年目を迎えます。これは、ミラノ市、フィエラ財団、ミラノの主要なデザイン学校であるNABA、Nuova Accademia delle Belle Arti、IED Istituto Europeo di Design、Scuola del Design/Politecnico di Milano、Domus Academyとのコラボレーションによるもので、デザインと建築の分野における卓越した教育を代表するものです。

このコラボレーションは、教育と仕事の世界をより緊密にするプロセスの重要な要素です。サローネは、市内の中心部にウェルカムステーションを設置し、100人ほどの学生が常駐して、市内の移動手段や見本市自体、またその週にミラノで開催される主なイベントに関する情報を一般の人々に提供します。学生たちは、デザイン業界のプロフェッショナルと対話し、サローネのようなイベントを開催するための力学やメカニズムについて学び、彼ら専用の公開レッスンや今年開催されるすべての学際的な文化的イニシアティブに参加することができます。

【4年目となるミラノ・スカラ座財団とのコラボレーション】

アイデア、文化、クリエイティビティの交流と循環に対して常にオープンでありたいという精神と、ミラノ市との結びつきの強さと貴重さを強調するために、ミラノ・スカラ座財団とのコラボレーションが4年連続で復活します。スカラ座管弦楽団の才能を促進し、高めると同時に、デザイン界にユニークな経験を楽しむ機会を提供するという2つの目的を持ち、共通の価値観を融合させるため生まれたコラボレーション。今年、リッカルド・シャイー指揮、テノール歌手フアン・ディエゴ・フロレス歌唱のもと、ジュゼッペ・ヴェルディ『ナブッコ』のシンフォニアから、ヴィンチェンツォ・ベッリーニ『カプレーティとモンテッキ』、ジャコモ・プッチーニ『マノン・レスコー』などの序曲まで、オペラの巨匠たちの傑作から最も有名な9曲が演奏されます。*招待客のみ

ミラノ、ジュゼッペ・サラ市長のコメント:

「ミラノサローネ国際家具見本市は、常に革新的で、トレンドを先取りし、美しく、ウェルメイドなものを高め、若者たちに自己表現の場を提供してきました。クリエイティビティとプラグマティズムをうまくミックスさせながら、現代という課題をどう解釈し、向き合っていくかを心得ているイベントは少ないが、ミラノサローネはそのひとつです。サローネは、家具とデザインの卓越性とアヴァンギャルドを紹介するだけでなく、その枠を超え、展示会場の内外で非日常的な世界を創造し、育むイベントであり、毎年、建築家、デザイナー、メーカーをはじめ、イタリア国内外でこの分野に携わる多くの企業、そして多くの来場者をミラノに惹きつけている。サローネはミラノの一部。それを大変誇りに思います」



【パートナーシップ】

- 2017年に始まった**インテ-ザ・サンパオロ**と**サローネ**との長年にわたる制度的パートナーシップは継続されており、イタリアの大手銀行がデザインや家具、メイド・イン・イタリアのセクターとともに、デジタル化への道筋を後押しし、環境への影響を軽減し、企業向けのアドホックなツールで海外でのビジネスを発展させることで、この国の経済の根幹をなすセクターを支援することを目的としています。
- 初のパートナーシップとなる**Aesop/イソップ**は、最先端のフェイスクア、ヘアケア、ボディケア製品で、その処方には、**持続可能でインテリジェントなデザイン**への真摯な関心が浸透しています。この空間とモノへのアプローチは、サローネにも共通するもので、よく考え抜かれた責任あるデザインほど、豊かな生活を促進するものはないという信念に忠実なブランドとして、常に不可欠な要素となっています。
- **ミラノサローネのオフィシャルタイムキーパー**である**Panerai/パネライ**とのコラボレーションが継続され、2つのブランドの歴史的な絆がさらに深まりました。
- また、伝統に則り、オフィシャルパートナーの**Piquadro**、**Cà del Bosco**、**S.Bernardo**、**illycaffè**のサポートが確認され、**Radio DeeJay**、**Radio Capital**、**Radio m2o**とのコラボレーションも継続され、再びサウンドトラックが提供されます。
- 「**Not in Milan**」は、ミラノサローネの豊かな伝統をさらに引き立てる6つのプレタポルテを紹介。昨年の **T-Shirt Icons** の成功に続き、新しいコレクションでは**プリントシャツ**、**グラフィックスウェットシャツ**、**様々なアクセサリー**が登場します。

【イタリア大使館貿易促進部(ICE)の協力】

ミラノサローネでは、見本市を運営する **Federleno Arredo Eventi(FLA Eventi社)** が、バイヤー、建築家、インテリアデザイナー、ジャーナリストをはじめとする海外事業者の関心と参加を喚起する戦略的な活動を考案するため、海外におけるイタリア企業の経済的商業的発展を支援し、イタリアへの海外投資の誘致を促進する政府機関である**イタリア大使館貿易促進部(ICE)**と積極的に協力しています。今年もまた、ミラノサローネに重要かつ貴重な支援を提供し、ミラノに最も多くの有能な外国人才オペレーターを招聘します。

プレスお問い合わせ先: 山本幸 yuki@milanosalone.com

International press info: Marva Griffin-Patrizia Malfatti press@salonemilano.it